

膜シンポジウム2022を2022年11月9日(水)・10日(木)の2日間、神戸大学の百年記念館において対面方式で開催いたしました。口頭発表27件、ポスター発表74件のお申し込みをいただき、当日参加も併せて167名の方にご参加いただきました。ご発表、ご参加いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

3年ぶりに対面のみでの開催ということで、開会では岡村恵美子会長からご挨拶をいただきました。一堂に会して学術集会を開催できるという普通のこと、とても嬉しいことである、ということを実感した瞬間でした。

今回は、「膜に学ぶ・膜を学ぶ」というテーマにさせていただきました。また目玉の企画として、人工膜領域と生体膜・境界領域から、著名な先生に招待講演を行っていただきました。人工膜領域は、京都大学のイーサン・シバニア先生に「Technology for Net-Zero Carbon Dioxide Economy (高分子ガス膜技術でCO₂ネットゼロ経済を)」というご演題で、また生体膜・境界領域は、京都大学の二木史朗先生に「ペプチドと膜の動的相互作用」というご演題で、それぞれご講演を行っていただきました。ご講演に対する質疑応答も活発に行われました。また、口頭発表も活発な質疑応答を行っていただき、しばしば予定時間を超

過することもありましたが、ご参加の皆様には対面実施の醍醐味を味わっていただけたのではないかと思います。今回、3年ぶりにポスター発表も通常形式で実施し、学生賞対象者によるショートプレゼンテーションも行いました。学生さんにとっては、大勢の聴衆の前でリアルに発表する貴重な機会になったようです。ショートプレゼンテーションの後、2つの会場に分かれて、偶数番号・奇数番号でそれぞれ1時間ずつポスター発表を実施しました。発表者と聴衆の密に配慮したつもりでしたが、発表が始まるとやはり密になりやすいケースもあり、予定外の扉や窓を開放するなど更なる換気を行うことで何とか乗り切れたと思っております。久しぶりのポスター発表は、とても熱気があり、コロナ前のような感じでした。残念ながら、懇親会は開催できませんでしたが、ロビーやポスター会場で、多くの方が対面での交流を楽しんでおられました。

今回開催した2日間は、とても天気が良く、神戸大学百年記念館からの眺めは最高でした。神戸大学での開催にあたり、実行委員も務めていただきました神戸大学の中川敬三先生と神尾英治先生、膜機構事務局の進藤様、膜センター事務局の神尾様、お手伝いいただいた神戸大学職員の皆様ならびに学生の皆様には、事前の準備から、前日の設営、



開会式で挨拶される岡村会長



講演後のシバニア先生と質問される松山先生



講演後に質問を受ける二木先生



神戸大学百年記念館から眺める神戸市

さらに当日の運営等，お世話になり本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

3年前には，「2年もすれば元に戻っているだろう」と思っていたのに，まだまだコロナ禍は続くようです。ですが，今回の膜シンポジウム2022の対面開催は，日常が戻りつつあることを実感させてくれるものでした。来年は，ICOM2023の開催と，日本膜学会第45年会と膜シンポジウム2023の合同開催の予定ですが，3年前のように懇親会まで実施できることを祈念しております。

実行委員会

実行委員長：小暮健太郎（徳島大学）

実行副委員長：高羽洋充（工学院大）

実行委員： 中川敬三（神戸大学），神尾英治（神戸大学），
酒井 求（早稲田大学），野村幹弘（芝浦工業大学），大橋秀伯（東京農工大学），金指正言（広島大学），森田真也（滋賀医科大学），中瀬生彦（大阪公立大学），池田義人（滋賀医科大学），大園瑞音（徳島大学）